

ファッションにおける買い物の”失敗”軽減サポートシステムの提案

野口 深雪[†] 大竹 恒平^{††} 植竹 朋文[†] 岡 誠^{†††}専修大学経営学部[†] 慶應義塾大学理工学研究科^{††} 東京都市大学知識工学部^{†††}

1. 研究背景

おしゃれをすることは我々にとって重要なことであり、ファッションは必要不可欠である。そして、「ファッションにおける買い物」は我々にとってとても身近なもので、習慣となっている。このように日常的に買い物をすることから、買い物における“失敗”が増えてきているのだ。その失敗とは、せっかく洋服を買ったのに家に代用できる洋服があったという失敗や、その時は気に入って買ったが、家に帰って自分の持っている洋服と合わせてみると合わなかったという失敗である。

近年では EC サイトを利用している人も多く、EC サイトを下見として利用している人も増えている¹⁾。EC サイトは直接商品を見ること・触ることが出来ない為、EC サイトならではの失敗もある。

2. 研究対象・目的

本研究は、今までにファッションにおける買い物で失敗したと感じたことがあり、その失敗を軽減したいと考えている人および自分の洋服の管理に困っている人を研究対象とする。また、つつい洋服を買いすぎてしまう人も研究対象とする。

ファッションにおける買い物の失敗は、自身が所持している洋服を適切に把握し、管理することで軽減できると考える。本研究は、ファッションにおける買い物の失敗の軽減をサポートするシステムの構築を目的とする。

3. 現状分析

現状分析として、主要な EC サイトおよび既存の洋服管理アプリの分析を行った。また、買い物の失敗の原因を明らかにするため、アンケート調査を行った。

3.1. EC サイト

EC サイトには、一つのブランドだけを取り扱っているブランド公式の EC サイト・同世代に人気のブランドを取り扱っている雑誌の公式 EC サイト・複数のブランド展開を行っている企業の

公式 EC サイトなどがある。そして、直接商品を見なくてもイメージしやすくする為に、洋服のサイズや材質感が細かく記載されている EC サイトも増えてきている。また、店舗のおおよその在庫が分かる EC サイトもある。

3.2. ファッションコーディネートアプリ (リアルクローゼット²⁾)

リアルクローゼットはバンダイナムコゲームスが提供するスマートフォン向けのアプリケーションであり、自身の所持する洋服を登録すると、仮想的なクローゼットを作成することが出来る。また、コーディネートの登録も可能である。登録した洋服はカテゴリー別に表示され、色や季節毎に所持する数をグラフにして閲覧することも出来る。また、ネットショップに移動することで購入も可能である。

3.3. アンケート調査

10代後半～20代の28人に買い物の失敗の原因についてアンケート調査を行い、失敗の例を挙げてもらった。そして、失敗の種類を購入前と購入後の2つに分類した。更にその失敗の原因を2つに分類すると以下ようになる(図1)。情報不足で起こる失敗は既存のシステムで十分回避出来ると考える。しかしながら、情報管理不足で起こる失敗の原因に関しては既存のシステムでは不十分であると考えられる。

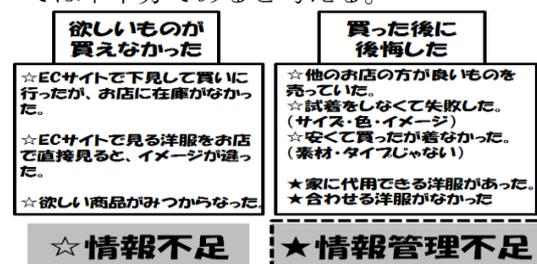


図1 ファッションにおける買い物の失敗

4. システム提案

4.1. システム概要

現状分析を踏まえ、情報管理不足で起こる買い物の失敗を軽減させる為に「自身が所持する洋服の管理」および「欲しい洋服と、持っている洋服とのコーディネート自動表示」の2つを有するシステムの提案を行う。

4.2. システムイメージ

4.2.1. 自身が所持する洋服を管理・把握する

本システムでは始めに自身が所持する洋服や、

「Proposal of "Failure" Mitigation Support System in Shopping of Clothes」

[†]「Noguchi Miyuki・Senshu University」

^{††}「Otake Kohei・Keio University」

[†]「Uetake Tomofumi・Senshu University」

^{†††}「Oka Makoto・Tokyo City University」

ファッショングッズを登録する。登録したい洋服やグッズの写真を読み込み、カテゴリー／詳細／種類／色／季節／お気に入り度の6つを登録する(図2)。また、フィルタや検索機能を使って、見たい情報の洋服の表示および類似物検索が出来る。



図2 自身の所持している洋服の登録

4.2.2. 欲しい洋服と持っている洋服を自動でコーディネートする

例えば、グレーのニットが欲しい商品だとする。その欲しい商品の画像を読み込んだ後に、合わせてみたい自身の洋服と合わせてみる。図3に自身の持っているボトムスと合わせた表示例を示す。トップスの画像が上で、ボトムスの画像を下に表示したい場合は、欲しい商品の画像は、「欲しい商品上」の隣に読み込み、「欲しい商品上」というボタンを押す。更に今回はボトムスを欲しい商品の下に合わせてみたいので「ボトムス上」の隣にある「下」というボタンを押す。そうすると、欲しい商品であるグレーのニットが上の行に、自身の持っているボトムスが下の行に表示され、コーディネートの一覧が全て出てきて見比べることが出来る。



図3 欲しい商品と持っている洋服とのコーディネート

5. 効果検証

本システムの有効性を図る為に、10代後半～20代の10人に実際に利用してもらい、5段階のアンケート調査による効果検証を行った。被験者にはもともと以下の提案をしている。

実験に際し、欲しい洋服と、自身の持っている洋服とのコーディネートを表示機能を評価する為に、トップスAを表示し、トップスAと自身の持っているボトムスのコーディネートを表示する課題を与えた。また、洋服の管理機能を確認する為に、トップスAと似た洋服を持っているか確認する課題を与えた。アンケート調査は以下に示す(表1)。またアンケート終了後本システムに関するインタビュー調査を行った。

表1 効果検証

質問	平均点数
①欲しい商品と自身が所持する洋服とのコーディネートがイメージ出来たか	4.2
②自身が所持する洋服を管理・把握出来ると思うか	4.0
③ファッションにおける買い物の購入意思決定がスムーズにいくと思うか	4.1
④ファッションにおける買い物の失敗を軽減出来ると思うか	4.5
⑤検索結果のコーディネートの一覧表示は見やすかったか	4.0
⑥検索の絞り込み方法は使いやすかったか	4.1
⑦欲しい商品と似ている自身の洋服を見比べられることは便利だと思うか	4.8
⑧本システムをファッションにおける買い物の際に利用してみたいと思うか	4.0

5.1. 効果検証の考察

効果検証の結果で一番評価が高かった項目は、表1の⑦の質問項目である。これは、類似物検索についての項目であり、「家に代用できる洋服があった」という失敗を軽減できることが明らかになった。「合わせる洋服がなかった」という失敗については、表1の①と②の質問項目の評価が少し低い為、まだまだ改善できる点があると考えられる。

6. 結論および今後の課題

本システムには大きく分けて2つの機能がある。それは“自身が所持する洋服を管理・把握する”機能と“欲しい洋服と持っている洋服とのコーディネート自動表示”機能である。効果検証の結果、2つの機能を用いることにより、ファッションやファッショングッズにおける買い物で、情報管理不足が原因で起きてしまう“家に代用できる洋服があった”と“合わせる洋服を持っていなかった”という失敗を軽減出来ることが示された。

今後は写真の読み込み方法を中心に、自身の洋服の登録を簡単な動作で出来るように再度システムの設計を行う予定である。加えて、ボタンの配置や結果の表示の仕方を、利用者にも与える影響を考慮し、改善していきたいと思う。

参考文献

- 1) http://www.mcto.co.jp/exam/opi/images/07/shopperrepo02_net201002.pdf
- 2) <http://realcloset.channel.or.jp/>